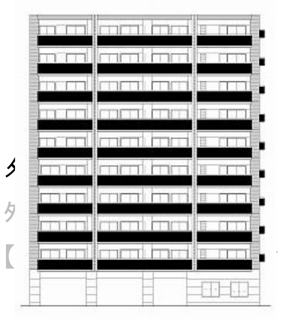
CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	(仮称)沼山津TKマンション	階数	地上10F
建設地	熊本市東区沼山津1丁目15番、16番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第二種中高層住居専	平均居住人員	144 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年3月20日
敷地面積	797 ㎡	作成者	今西良一
建築面積	274 ㎡	確認日	2014年3月24日
延床面積	2,217 ㎡	確認者	(有)MON設計事務所

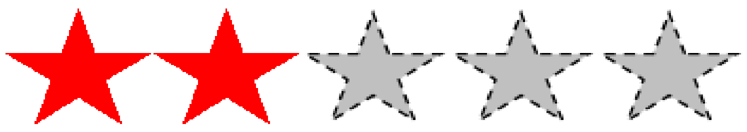
■ 外観

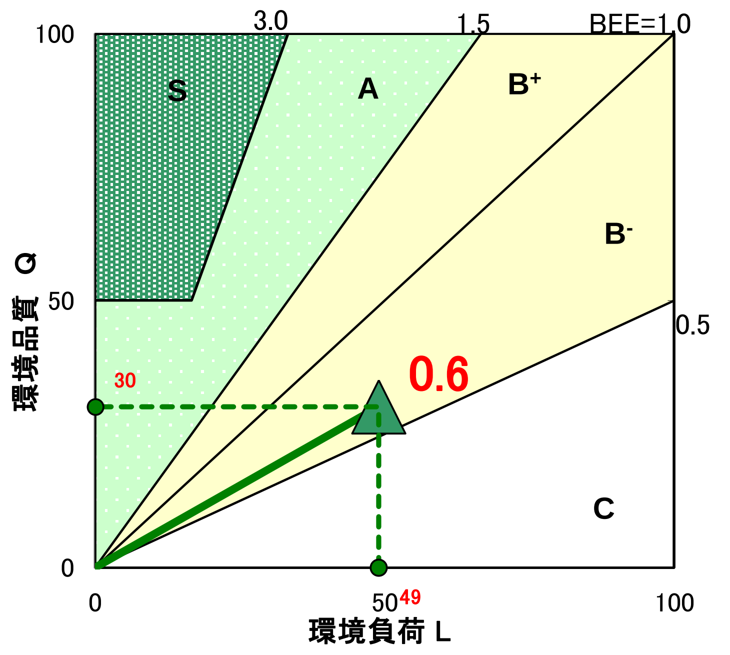


けしてください。

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）





BEE = 0.6

■BEE（環境効率） = Q（環境品質） / L（環境負荷）

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	－
B⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	－
B⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	－
C	★	劣る	0.5未満	－

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

排出率

93%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

70

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	72.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.7

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

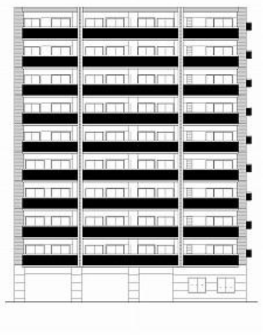
CASBEE®熊本《新築》【 評価結果 】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版　▌使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)沼山津TKマンション	階数	地上10F
建設地	熊本市東区沼山津1丁目15番、16番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第二種中高層住居専	平均居住人員	144 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月　予定	評価の実施日	2014年3月20日
敷地面積	797 ㎡	作成者	今西良一
建築面積	274 ㎡	確認日	2014年3月24日
延床面積	2,217 ㎡	確認者	(有)MON設計事務所

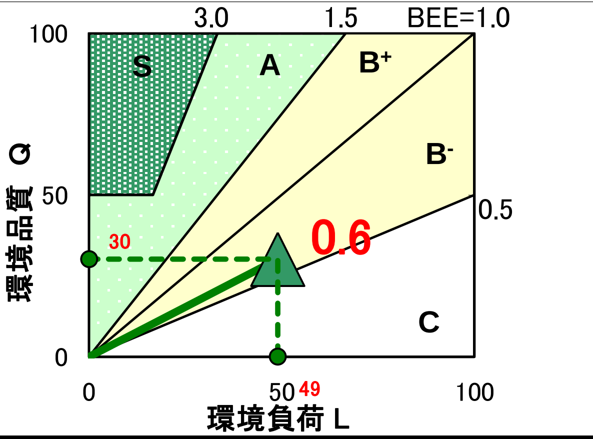
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

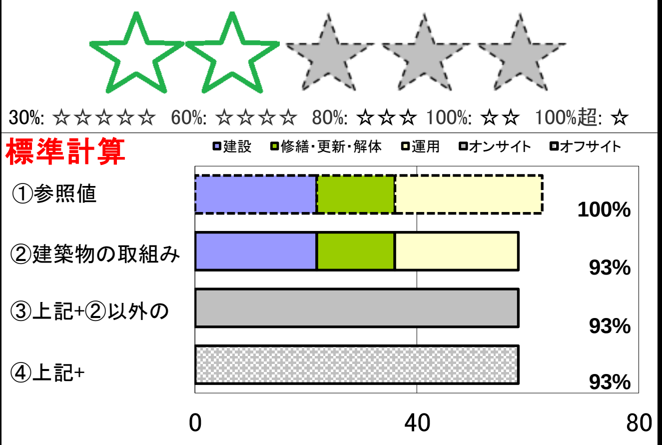
BEE =0.6

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



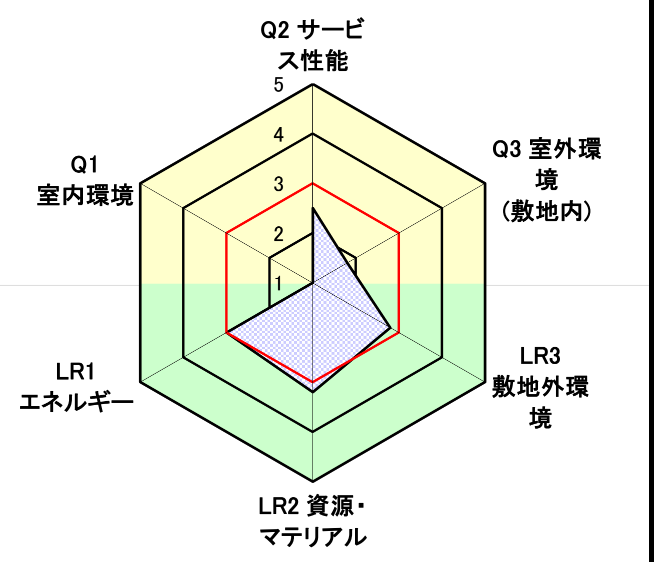
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです　(

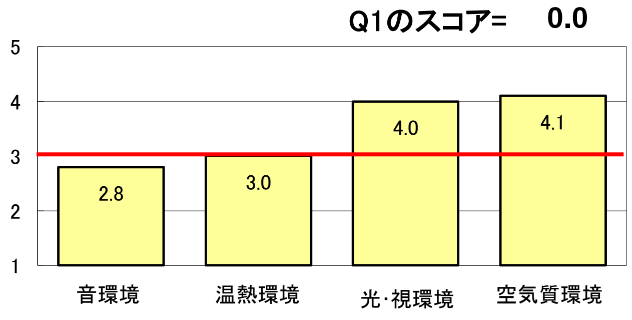
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



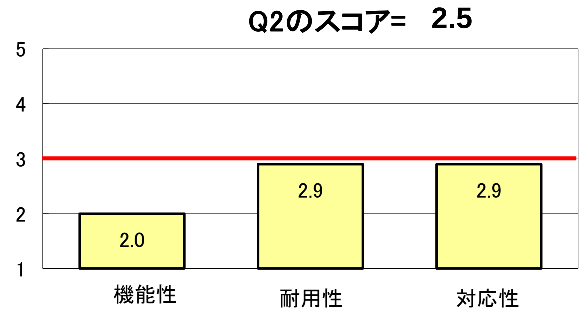
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　*Q のスコア=　2.2*

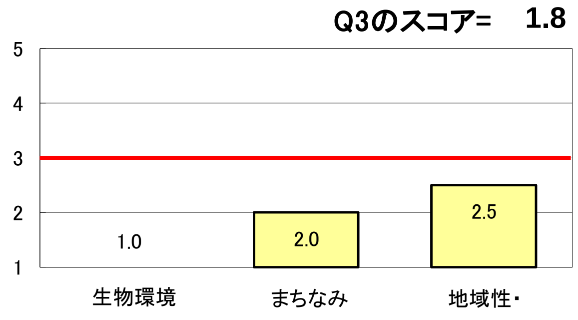
Q1 室内環境　Q1のスコア=　0.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア=　2.5

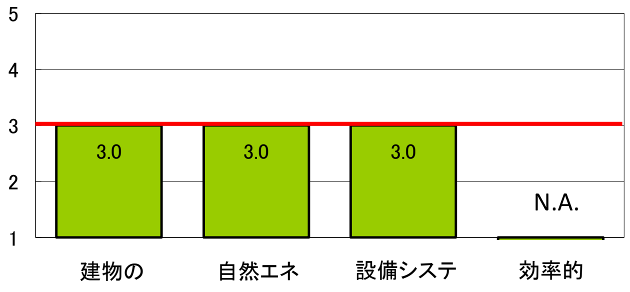


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア=　1.8

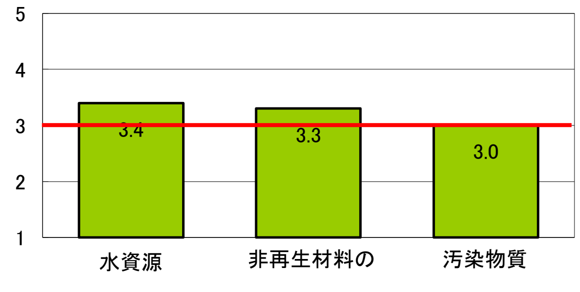


LR 環境負荷低減性　　*LR のスコア=　3.0*

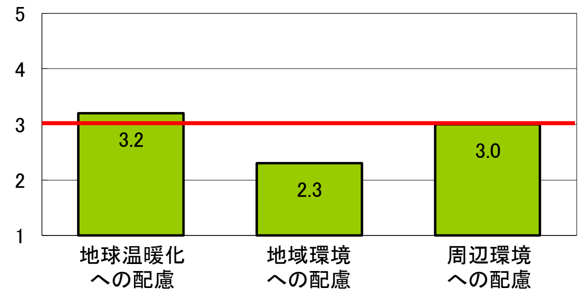
LR1 エネルギー　LR1のスコア=　3.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=　2.8



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 =　70

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 =　72

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =　61

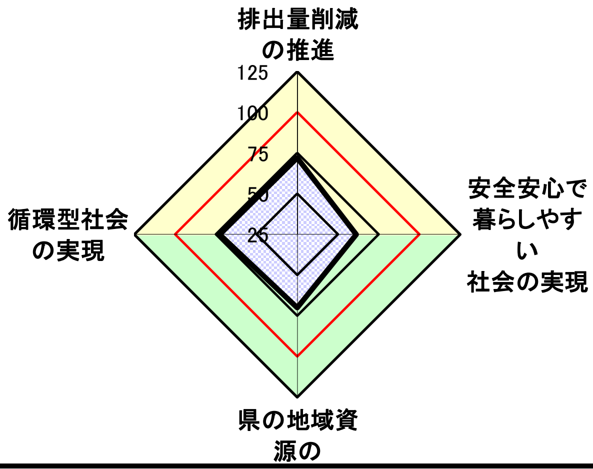
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 =　70

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =　73

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築（簡易版）2010年版
(仮称)沼山津TKマンション

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.2**
Q1 室内環境			-			-
1 音環境		-	-	**2.8**	1.00	**2.8**
1.1 騒音		-	-	**3.0**	0.50	
1 室内騒音レベル		-	-	3.0	0.50	
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		-	-	**2.6**	0.50	
1 開口部遮音性能		-	-	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr=45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		-	-	**3.0**	1.00	**3.0**
2.1 室温制御		-	-	**3.0**	1.00	
1 室温		-	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		-	-	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-	-	-	-	
3 光・視環境		-	-	**4.0**	1.00	**4.0**
3.1 昼光利用		-	-	**4.0**	0.50	
1 昼光率	(住)2.0%≦昼光率	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	**4.0**	0.50	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	庇＋カーテン	-	-	**4.0**	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		-	-	**4.1**	1.00	**4.1**
4.1 発生源対策		-	-	**4.0**	0.63	
1 化学汚染物質	(住)ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	-	-	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	**4.3**	0.38	
1 換気量	基準法の1.4倍の換気量	-	-	5.0	0.33	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/6以上	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	**0.50**	-	-	**2.5**
1 機能性		**3.0**	0.40	**2.0**	1.00	**2.0**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.57	**2.0**	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	2.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	**2.0**	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理		**3.0**	0.43	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		**2.9**	0.31	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震		**3.0**	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**2.7**	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		3.2	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水型器具＋系統の細分化	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.0	0.29	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり		-	-	2.8	0.50	
1 階高のゆとり	2.9m≦基準階高：2.92m＜3.0m	-	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.50	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		3.0	0.40	-	-	3.0
集合住宅以外の評価（ERRによる評価）	#VALUE!	5.0		-		
集合住宅の評価		3.0		-		
4 効率的運用		-	-	-	-	-
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマ＋省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.3	0.63	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体＋軽鉄＋仕上げ材、再利用できるユニット部材採用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	1.00	-	-	
3 冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO_2=93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合
省エネルギーや耐久性を考慮して、地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和に努めている。

Q1 室内環境
断熱性能の高い外壁材の選択、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に配慮している。遮音性能の優れた建材を使用し、住戸のプライバシーに配慮している。室内の空気質に配慮し、化学汚染物質の最小化及び換気量を確保している。

Q2 サービス性能
耐用年数の永い材料を使用し、建物が長期間使用できるよう配慮している。節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。

Q3 室外環境（敷地内）
建物を道路から後退させ、歩行者等に圧迫感を与えないよう配慮している。建物下駐車場に日陰を設け、夏期の暑熱環境の緩和に努めている。

LR1 エネルギー
高効率照明器具を採用している。

LR2 資源・マテリアル
節水器具や省水型機器の利用により、節水を図っている。
分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。

LR3 敷地外環境
敷地内の風通しにより、敷地外のヒートアイランド現象緩和に努めている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	*(仮称)沼山津TKマンション*

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)　■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	69.6
重点事項 / 重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				72	0.40	28.80
Q1-2.1.3	外皮性能	*3.0*	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	*3.0*	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	*4.0*	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	*3.0*	0.18			
LR1-2	自然エネルギー利用	*3.0*	0.24			
LR1-3	設備システムの高効率化	*3.0*	0.35			
LR2-2.1	材料使用量の削減	*2.0*	0.12			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	*3.0*	0.12			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	*3.0*	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	*3.0*	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	*1.0*	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	*2.5*	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	*2.0*	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	*2.0*	0.20			
LR2-1.1	節水	*4.0*	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	*3.0*	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	*2.0*	0.30			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	*2.7*	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	*3.0*	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数